

# 深小つ子 ≪一月≫ 暗唱チャレンジ

令和二年初めての暗唱です。今月の暗唱課題は、五・七・五・七・七の三十一文字からなる和歌を三つ覚えましょう。

ふだん使わない言葉で覚えづらいと思いますが、がんばって覚えてください。

かきのもとのひとまる

柿本人麻呂

ひんがし



東の野にかぎろひの立つ見えて  
かへり見すれば月傾きぬ



やまのうえのおくら

山上憶良

ひんがし

の

銀も金も玉もなにせむに  
優れる宝子にしかめやも

まさ

たから

い

み

つき

かたぶ



志貴皇子

しきのみこ

石走る垂水の上のさわらびの  
萌え出づる春になりにけるかも

いわばし  
も  
い  
はる  
うえ

たるみ

か

も

い

はる

か

も

か

## 【意味】

東の野に日の出前の光が差し始めるのが見えて、後ろを振り返つて（西の方を）見てみると、月が傾いていた。

※かぎろい：かげろう

銀も金も宝石も、どうしてそれらより優れている子供（という宝）に宝として及ぶだろうか。いや及ばない。

※玉：宝石

岩の上を激しく流れる滝のほとりでは、さわらびが芽を出す春になつたことだなあ。

※石走る：水がしぶきを上げて、岩の上をはげしく流れる様子

※垂水の上：滝のほとり

※さわらび：芽が出たばかりのわらび